

今後の作業（案）

1. 各主体からの提案に係る制度面での実現可能性の検証

- (1) 手法間比較に直接関係するもの
- 材料リサイクル技術の高度化の方向性
 - 分別収集の高度化（環境配慮設計、表示の改善、品質管理基準の設定）
 - それぞれのリサイクル手法に適したベール品質に応じた市町村の選別
 - 市町村によるリサイクル手法の選択
 - 地域循環への配慮、地域偏在への対応
 - 製品プラとの混合収集（別途議論の進捗状況を踏まえ検討）
- (2) 効率性の向上等制度全体に関係するもの
- 市町村の収集量の増加
 - 複数年契約
 - 再商品化製品利用製品の利用拡大

2. 再商品化手法の改善のためのシナリオの設定

- それぞれのリサイクル手法に適したベール品質の実現
 - ・ 分別収集の高度化策や各主体の取組等を通じて、市町村により作られるベール中の異物等（汚れ、金属片等）の除去がさらに進み、かつPP、PE等の主成分比率が高まることを想定。
- 製品プラとの混合収集
 - ・ 別途議論の進捗も踏まえつつ、製品プラとの混合収集を行った場合のベール品質やその量の変化を想定。
- 実測値の収集等、使用データの整理
 - ・ ヒアリング中で指摘された意見も踏まえ、可能な限り最新の実態を踏まえたデータを収集、整理。
- これまでの審議会の議論で指摘されている事項の配慮
 - ・ 材料リサイクルにおける産廃プラスチックの混合の扱い
 - ・ 利用製品の処分方法
 - ・ 他工程利用プラスチックの扱い
 - ・ 再商品化手法ごとの適切なシステム境界の設定
 - ・ リサイクルにより代替される資源の評価
- ケミカル手法の中も細分化し、燃料化手法や焼却発電、埋立も検討対象に追加

3. LCA等の評価基準の設定と評価

(1) LCAの評価基準の設定

- 二酸化炭素の排出削減効果等の環境面の効果だけでなく資源面の節約効果も評価基準に加える。

(2) 経済コストやその他の考慮事項等、LCA以外の評価項目とそれぞれのデータ整理

- 経済コスト
- プラスチックの化学的性質の活用の評価
- 消費者等から見たわかりやすさ
- 事業の適正性、透明性

4. 1～3を踏まえた論点の整理

- 材料リサイクル手法の優先的取扱いの在り方に関する論点の整理
 - ・ 「一定の条件」のもとでは、他の手法に比べて、環境負荷、資源節約性等の面で優れていると言えるか。
 - ・ 「一定の条件」の実現可能性、コスト
- 上記の結果を踏まえた、今後対応すべき技術的、制度的課題の整理
 - ・ 入札における材料リサイクルの優先的取扱いの在り方
 - ・ 総合的な評価の方向性
 - ・ それぞれのリサイクル手法ごとに適したペール品質の実現
- 燃料利用の取扱い等に関する整理
 - ・ 現在、緊急避難的・補完的利用として位置付けられているRPFの取扱い
 - ・ 油化（全燃料化）、ガス化（全燃料化）の取扱い
 - ・ 材料リサイクル等における他工程利用プラスチックの位置付け
 - ・ 高炉還元剤化の位置付け（燃料利用との相違）